

第 20 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名 (小石委員)

教 育 長) ここでお諮りいたします。第 28 号議案「平成 28 年度芦屋市立小・中学校管理職の人事異動に係る兵庫県教育委員会への内申について」は、その内容から秘密会で審議するのが適切と考えますが、御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

また、審議の順番ですが、関係者以外は退席することになりますので、一番最後に審議したいと思いますが、いかがでしょうか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

それでは、審議に入ります。日程第 1、第 29 号議案「平成 28 年度芦屋の教育指針について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育部主幹) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 前回、この説明がありました。それから今回、変わっているところはありませんか。委員の皆さんにお示しした後、変更したところを教えてください。

学校教育部主幹) 〈資料の変更点について説明〉

学校教育部長) 〈資料の変更点について説明〉

学校教育部主幹)

本冊子の変更部分ですが、例えば11ページ「指導方法の工夫・改善を進める」の2つ目に「タブレット等」というところがあります。ここは以前「ICT機器」としていましたが、実際はICT機器の中でも特にタブレットを精道小学校で取り組んでいます。それを来年、宮川小学校などへ広げていきますので、タブレットという具体的な表記に変更しております。

それから、14ページ「主体的に体力向上を目指す」というところの2番目です。文章を、より具体的に「各校の課題に合わせた改善策を示し、体力向上に向け取り組むとともに、学校園間での実践交流をすすめます」という表現に変えました。また、スポーツ交流大会を実施していきますといったことも、具体的に盛り込みました。

それから17ページです。人権教育の2番目は、平和教育という形で書いておりましたが、そこを「戦争の悲惨さや平和の尊さについて」学び、そのことを、以前は若い先生たちに引き継ぐということがありました。若い先生はもちろんのこと、全ての教員で命の教育を発展させていくという表現に変えております。

同じく17ページの、地域・保護者との連携の2行目「指導に活かす」という、ここも言い方をわかりやすく変えました。

それから同じ17ページの一番下の行、これまで一般的な言い方で流布している「多文化共生教育」という言葉にしていたのですが、「子ども多文化共生教育」と変えました。ここは、県教育委員会も「子どもの多文化共生」という、大人ではなく子どもということをつけた名称にしていますので、統

一を図りました。

それから18ページの3つ目の丸印「子どもの主体性を育てる活動」で、「大学と連携」という言葉にしていたのですが、実際に行っている「スマホサミットやスマホ教室を開催」と変えました。そして子どもの主体性を育てる場、特にこういう携帯電話の問題などは、家庭とも連携しながら進めていかなければいけないということで、「保護者とも連携」という言葉をつけ加えました。

あとは、27ページの図書の取組のところでは、2つ目の「図書館と連携した取組」で、読書イベントを「図書館と連携」をして行っていくという項目と、「5年間の取組」の中にもありますが、「学校図書館のレファレンス機能を高める」というところを新たにポイントとしております。

あと、29ページ以降は、市民センター、ルナ・ホールの事業、ここは社会教育部のところですが、小見出しの表現が全部体言止めで、例えば「市民センター事業」とか「学習環境の整備」という表現になっていたのを、ほかのところと言葉を合わせて「進める」「図る」等、そういう表現に変更したというところがございます。

学校教育部長)

31ページですが、前回ご指摘があった、現状と目標で数値が変わっていないところについてですが、その理由を、アスタリスクつきで示しております。

この表の使い方については、平成26年度の数値と、32年度の数値を比較する形で今年度はつくっております。これは来年度で言いますと、現状値が平成27年度に変わりますので、

この値を見ていくことで進行管理に代えていこうと考えております。

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

17ページが一番下、共生教育の充実を図るという項目の中に、「芦屋市帰国・外国人児童生徒支援連絡協議会」を設置し」とありますが、これは設置していなかったのですか。

学校教育部主幹) 今年度も設置してあります。

教 育 長) ありますね。だから今年度の主な取組としては、協議会自体はそもそもあるものですね。

学校教育部主幹) あります。指針の作成という部分が、新しくやっていくことです。

学校教育部長) 「継続開催し」とか。

教 育 長) そこだけが少し気になりました。ないものを今年つくって行きますよと読めないかと。

管 理 部 長) そうですね。「協議会の中で」とか、そういう表現でもいいかもしれませんね。

学校教育部長) そこはまた修正をさせていただきます。

教 育 長) そこだけ、少し文言を考えていただけますか。

小 石 委 員) いつもこれを読むときに、もちろん子どもが中心だということは、学校教育のほうではあるのですが、社会教育という観点からすると、もう少し、そこら辺をどういうふうに表現したらいいかいつも悩みます。

これはこれとして、サブタイトルにある「豊かな環境とつながりの中ではぐくむ子どもの生きる力」という「豊かな環境の」中には、自然環境も文化環境も全部入っているのだという

ことはよくわかりました。例えば、あえて「豊かな環境と人とのつながりの中で」とすると、人同士がかかわって、あるいはお互いに助け合って、学び合っという意味合いが入ってくるのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

浅井委員) 山田主幹の思いは大変伝わってきておりまして、説明で述べられた5つの観点も盛り込まれていると思いますし、そのつながりを生かしてということで、タイトルを考えられたのですね。そういうふうに説明をしていただくと、なるほどとは思いますが、今、小石委員がおっしゃった「豊かな環境と人とのつながりの中で」とした方が、伝えたいことがすっきりと表現できているかなという印象を持ちました。

学校教育部長) はい。趣旨はそのとおりでございますので、皆さんに御異論がなければ、そういう形で考えたいと思います。

字の大きさやレイアウトや写真などは、まだこれからということになりますので、中身を見ていただければと思います。

教育長) 先ほど、小石委員からご指摘がありました、「子どもの生きる力」という、これは社会教育では子どもだけではないですよ。

木村委員) 「子ども」を削りますか。「はぐくむ生きる力」としてはどうですか。

小石委員) いろいろ考えたのですが、あまりぼんやりしてしまうのもよくありません。ここでの、高齢者のいろいろな大学にしても学びにしても、そこで学んだことをまた次の人に伝えていくこともされていますよね。そういう学び合いという観点からすると、これでもいいのかなと。最終的に、子どもたちにそういっ

たものもいい環境として機能するのだという発想になれば、このままでもいいかなと思いました。

社会教育部長) これまでの教育振興基本計画の中でも、社会教育の部分は本当に少しでした。学校教育以外は全て社会教育のはずなのに、非常に狭い範囲の中でしか書かれていませんでした。今回、他の自治体の指針を見せていただいたのですが、やはり学校教育のほうが5分の3とかで、2分の1ということはないですね。教育委員会は子どもが中心ということがあるので。今回の教育振興基本計画の中では、かなり社会教育は盛り込んでいただいたと思うので、そこは少し満足しているところであります。

教育委員会の指針とし、はやはり子どもが中心で、それを周りで大人がサポートしながら、自己実現を果たしながら子どもを支えていく。先ほど小石委員が言われていたように、学びとはぐくみ合いという、知の循環がここで働いているのだなということ、子どもが中心で、「子ども」と出てきても、それは、みんなにつながります。先ほどの「人」を入れていただいたら、本当に、ここですっきりつながったかなと感じているところでございます。

松本委員) 実際の実組や、指針に書いてあることも、素晴らしいものがたくさんあります。例えばキャッチコピーを、広告代理店等に頼むのは、かなりのお金がかかるのですか。ものはいいのに、広報の仕方が普通というか、何か違った視点で、プロの人が見たら、芦屋の実際のすばらしさがもっと見てすぐわかるようなものにできるのではないかと思いました。

管理部長) 教育振興基本計画は、コンサル会社に業務委託して、調整

しながら行っている部分があります。

松本委員) そうなのですか。これは毎年の分なので外注まではしていないということですか。

管理部長) そうですね。そこからの抜粋で、単年度ということですが、どれぐらいお金がかかるかは、期間にもよります。教育振興計画は1年間の業務委託でやりました。

松本委員) そういったところを参考に、こちらでも見せていけばいいという感じですね。

管理部長) そうですね。

教育長) 今、「豊かな環境と」という文言についての意見が出ておりますが、そんなにこだわることなく、ここで決めてしまっただけでもいいと思います。そのつながりという意味を、「人との」と言ったらわかりやすいとか、いろいろなつながりがあるから、このままのほうがいいのではないとか、いろいろな考え方もあろうかと思えます。

浅井委員) そもそも、子どもの生きる力をはぐくむということ自体が、社会教育であるともとれると思えます。

小石委員) もちろんそうですね。

浅井委員) これはトータルで、よく表現されているなと私は思います。

教育長) 小石委員のご提案としては、「人との」という言葉を入れたらどうかということですね。

小石委員) はい、そうです。

教育長) ほかの委員の皆さんはどうでしょうか。

松本委員) はい、入れたらいいと思います。

教育長) 事務局、それでいいですか。

管 理 部 長) このままだとつながりの主語がないですね。これは、豊かな環境とつながるという意味ですか。

木 村 委 員) つながりというのは1つの名詞で、普通つながりといったら人とのつながりですからわかるのですが、よりわかりやすくするという意味で「人との」を入れるという、そういう趣旨だと思います。

教 育 長) ここは豊かな環境、アンドつながりということですね。豊かな環境の中で、人とのつながりの中で、という2つの面を、その中で子どもの生きる力をはぐくむというのが普通ですが、それを倒置した形でキャッチコピーにしているということですね。

学校教育部長) 副題は、あまり説明し過ぎてもいけないというところもありました。ですから、「豊かな環境」と「つながり」とを、名詞で並べたということもありますので、よりわかりやすさを追求するのであれば、当然「人とのつながり」です。キャッチコピーではないのですが、こういう副題で挙げるときには、あまり長いと覚えにくいとか、言いにくいとかいうところもありました。

松 本 委 員) 私は「豊かな」が両方にかかっているのかと思いました。

管 理 部 長) そういう誤解にもなりますね。

松 本 委 員) だから、「人との」を入れるといいのかなと思いました。環境と人とのつながりもあるし、そういういろいろ複合的に読めるので、芦屋の豊かな感じが、人も豊かだし、環境とかいろいろなことが豊かでしょうというのが、そこで考えられているのかなと思ったのです。

浅 井 委 員) つまり、豊かな環境と豊かな人とのつながりでもいいわけ

ですよね。

学校教育部長) 「人との」を入れる分には、全く問題ありません。

教 育 長) 小石委員からのご提案もありますし、委員の皆さんから、それに対してこういうのがいいという意見があれば言っていただいて、なければ、小石委員の御提案どおり、「人との」という言葉を入れるということで、いかがでしょうか。

それでは、このところは「豊かな環境と人とのつながりの中ではぐくむ子どもの」として、「豊かな」は両方かかろうが、それは読み手によって解釈してくださいということでよろしいですね。

他について、いかがでしょうか。

木 村 委 員) すごく細かい点で申しわけないのですが、ダイジェスト版の表紙を入れて5ページ目、「3 子どもたちの学びを支える環境の整備に取り組みます」という項の3-1で、「今年度の主な取組」とあって、そこで「研修機会の確保を図る」となっています。ほかは全部ですます調にされているのですが、ここだけである調になっていますね。

教 育 長) はい、「図ります」ですね。ありがとうございました。

学校教育部長) 少しひっかかっているのは、全部に「今年度の主な取組」と書かなければいけないのかということです。それは28年度ですから、これは、ないほうがもっと見やすくなるのではないかと感じています。

管 理 部 長) 「主な取組」は要りますね。

学校教育部長) 「主な取組」ということで、「今年度の」を取っていくということですね。

松本委員) 　でもやはり「今年度の」がないと、何の主なのかわかりにくいですね。

浅井委員) 　上に今後5年間とありますから。

教育長) 　「今年度の」と「主な取組」はセットですね。

学校教育部長) 　セットですね。わかりました。

教育長) 　不評であれば来年変えたらいいと思います。

質問されて答えるよりは、わかりやすく書いたほうがいいですね。

学校教育部主幹) 　それと、紙の関係でダイジェスト版の綴じ方は、本日お渡しした形ではなく、本来は観音開きになります。

教育長) 　ダイジェスト版は市民の方に配るので、教育委員会としても、これが評価となります。書いただけだととられないようにしなくてははいけません。各担当部署は、具体的に何を進めたのかわかるように。ここは進めたけれども、これは課題があったというように、PDCAサイクルになるようにしてください。評価項目でもありますので。花火を上げたけれども中身がなかったでは困ります。これは、今年度の教育委員会のマニフェストなので。

管理部長) 　先ほど木村委員がご指摘の、「図る」を「図ります」のところについて、ダイジェスト版では「研修機会の確保を図る」ですが、本編の21ページでは「各種研修の充実を図ります」になっています。

教育長) 　当然本編が基本形なので、本編の内容からずれないようにしてください。

学校教育部長) 　下の、今年度の主な取組から言葉をとったのではないです

か。「研修機会の確保を図る」とあります。

管 理 部 長) ここは「確保を図る」ですね。その上の(1)では「研修の充実」となっています。

学校教育部主幹) それは教育振興基本計画の目標なので、今年度の主な取組の小見出しを、ダイジェスト版の小見出しに使っています。

管 理 部 長) そうですか。確保を図ると言うのでしょうか。それは充実を図るになりませんか。

教 育 長) 印刷にはいつ回すのですか。

学校教育部主幹) 今、業者を決めている段階です。来週から業者とやりとりをします。

教 育 長) 今のような場所について気がいたら、まだ1週間ぐらい直す機会はあるということですね。

学校教育部主幹) はい。まだ校正の段階でも直せると思います。

教 育 長) 直接配布するのはいつごろになりますか。

学校教育部主幹) 4月5日です。

教 育 長) 4月5日に配布ですね。印刷業者には10日ぐらい前に出さないといけないので、3月20日ぐらいまでにしてしまわないといけないですね。

学校教育部長) 校正が2回入ります。

木 村 委 員) この「研修機会の確保を図る」も日本語として少し違和感があります。「研修機会を確保する」もしくは「研究機会の充実を図る」であればいいと思いますが。そういう、細かな点ですけど、そのあたりはまた見ておいていただければと思います。

学校教育部長) わかりました。

教 育 長) 「確保を図る」というと、後ろ向きにとられるので、もっと

積極的な表現の方がいいかもしれませんね。

そうしましたら、おおむねこの形で行かせていただいて、本日、サブタイトルについては「豊かな環境と人とのつながりの中ではぐくむ子どもの生きる力」とさせていただき、その下に入れる写真は、事務局でプライバシーのほうを基本にして、子どもの動きがわかるようなものを考えましょう。

文言に関しては、今、木村委員から指摘があったような内容についてももう1度、自分のところ以外の担当が目を通してほしいと思います。素人感覚で眺めていただいて、おかしいなどいうことを最終チェックにしてください。

基本的に、この方針は、基本計画の中を全部コピーして入れたということによろしいですね。

学校教育部主幹) はい。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり、一部修正を加えるということで、可決することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は可決されました。

〈第29号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 次に、日程第2、報告第20号「平成28年度芦屋市立幼稚園学級編成について」を議題とします。提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

宮川幼稚園が特に少ないですね。どうして少なくなったの

かといった分析はしていますか。

管 理 課 長) 保育所の入所者数の増加の影響と分析はしております。どこの子どもたちがどこの保育所に流れているかまでは確認できておりません。

木 村 委 員) 宮川幼稚園は、平成26年度から27年度で急に入園者数が増えたとか、そういう話はないのですか。それが減ってきているというようなことは。

管 理 課 長) 保育所の入所割合自体が、少しずつ宮川の子どもたちが右肩上がりに増えてきているという事実も保育所では把握しております。

木 村 委 員) 幼稚園のほうです。幼稚園で、27年度が突出して多かったから、それがリバウンドしたのだという、そういう話でもないのですか。

管 理 課 長) 4歳児は下がっています。それ以前は80人おられて、80人が50人になって、今回は38人です。26年度は、80人いたのが5歳児では85人になって、新しく入ってくる4歳児は50人に減ってしまっているのです、その時点で、昨年度より30人減っています。それがそのまま5歳に持ち上がりになりまして、新しく4歳児の募集をしたところ、また50人が38人に減っているということです。もともと宮川幼稚園はずっと80人前後だったのですが、27年度で一気に50人に落ちている状況です。

社会教育部長) 根拠はないのですが、少し聞いた情報では、27年度の時点で西宮の私立幼稚園のバスの経路が変わったそうです。その宮川幼稚園の園区、自由園区ですが、そのあたりを運行するよ

うになったということで、どうやらそちらのほうに流れているらしいということ、最近ですが少し聞いたことがあります。

小石委員) この私立幼稚園に通っている園児数は、ここでは把握はできないのですか。

管理課長) そうですね、義務教育ではないため、届け出が必要ありませんので。単純に、公立幼稚園と保育所の子どもたちを引いた私立の人数となると、2%ぐらいの増加は見られるのですが、ただ、それがみんな私立に流れているのか、それともインターナショナル系のところに集まっているのかはわかりません。

木村委員) このあたりを今すぐに分析とはいかないでしょうが、どういう事情でこうなっているのかということが、将来計画を立てる上で非常に重要になってくると思います。例えばこの宮川地区で、共働きの家庭が非常に増えてきて、それで保育所を使うようになっているのか、そういう私立の幼稚園に流れているのか等、そのあたりも、芦屋市の総合的な計画の中で、なぜかという根拠をはっきりさせないと、いろいろ紛糾すると思います。そういうところはある程度調べていただきたいと思います。

管理部長) ちょうど今年、国勢調査が行われましたので、担当課に聞いてみところ、共働きの世帯数の分析は夏になりますと言われました。今、人口の速報値ぐらいは出ているのですが、就労状況は国勢調査も活用したいと思っています。

小石委員) 3年保育が問題になっているのか、あるいは今のよう、通園バスが非常に大事な要因になっているのか。親からすると、家の近くまでバスがきてくれたら助かりますよね。

管 理 部 長) 各幼稚園でアンケートをとってしまして、なぜ公立幼稚園を選びましたかという問いに対する回答で一番多かったのが、近いからというものでした。そういう意味で言うと、私立はそこをカバーするためにバスを走らせているということが言えます。

小 石 委 員) 私立幼稚園の教育方針みたいなものに共鳴される親御さんもいらっしゃるよな。

管 理 部 長) 先行教育で英語があったり、習い事があったり。

小 石 委 員) そういうのもありますね。それと、浜風幼稚園が減った分は潮見幼稚園に行っているのでしょうか。

管 理 課 長) 潮見幼稚園に9名、伊勢幼稚園に1名、宮川幼稚園に1名で、全部で11名が旧浜風園区からほかの公立幼稚園に行っています。

小 石 委 員) 大分少ないですね。ほかの人たちはどこか私学とか、そういうところに流れてしまったということですか。

管 理 課 長) 幼稚園バスに乗って阪神間に流れているというのは聞いております。

小 石 委 員) 他の公立幼稚園だと遠いからということですね。

管 理 課 長) はい。

松 本 委 員) 朝日ヶ丘幼稚園と伊勢幼稚園の4歳児は、31人で2クラスになっているのですが、1人引っ越したら1クラスになるというようなことはないですか。この時点で、学級数は確定ということですね。

管 理 部 長) この時点で決まります。

木 村 委 員) 宮川幼稚園はかなり減ったとはいえ、学級数は4クラスあ

ります。ですが、精道幼稚園で13名減っているのが、かなり減っているなど。27年度から、4・5歳児とも1クラスで来ていますので、減った理由を、特にここは、かなり分析しておかなければいけないと思います。

管 理 部 長) ここはおそらく、子どもの数自体も減少傾向にあると思います。

浅 井 委 員) 去年の資料を見ているのですが、西山幼稚園が21人も減っていました。でも今年は1名増になったというのは、何か減少を食い止めるということがなされたのか、それともマンションが建ったとか、理由はわかりますか。

教 育 長) 西山幼稚園は、3歳のときには就学前施設に行って、4歳から西山幼稚園に行くかたが多いです。

学校教育部主幹) 二重保育をされている方は、少数ですがいらっしゃるという話は聞いております。毎月、伊勢幼稚園は3歳児対象で親子ひろばを開催しておられますが、西山幼稚園は不定期で何度か3歳児対象の親子ひろばを開催していらっしゃいます。それ以外は特に、ほかの幼稚園と際立って新しい取組をしているわけではないと思います。子どもの人数の変動で、よくわからないところがあります。

教 育 長) コミスクの活動を見ていたら、ウエストマウンテンといって、西山幼稚園の保護者や、卒園した子どもの保護者がコーラスなどの活動をされていますね。

社会教育部長) 保護者の方が守ろうとするような、そういう活動をしておられますね。

浅 井 委 員) そういう地域活動の活発さも、少しかかわりがあるのかも

しませんね。

社会教育部長) そうですね。地域の夏祭り等、いろいろなイベントに、西山幼稚園の保護者の方々でつくっておられるコーラスなどが出場していますね。あれはすごいなと思って見ています。そこにまた園長先生もかかわって、それで相乗効果を上げていらっしゃるのだと思います。

浅井委員) はい、ありがとうございます。

教育長) 学級数決定の基準日として2月29日があって、この中でぎりぎりのところと余裕があるところがあります。朝日ヶ丘幼稚園の5歳児は35人で、ちょうど満員です。余裕を持たせればいいではないかという考えもあるのですが、やはり基準日に基準どおりの数ということで、事務局は決断させていただきました。

学教審も立ち上がっておりますので、やはりこの4・5歳児ともに1クラスの部分等、その辺りは、事務局としても、十分に情報分析をしておく必要があるということだけ、認識を深めておきましょう。

木村委員) 精道幼稚園は、4歳児が18人しかいないのですね。5歳児は26人だから、一応1クラスずつになっていますが、その中身が非常に少ないという状況です。去年は57人だったのが13人減って44人ですから、数だけではなくて変動率で見ても相当なものを感じます。

小石委員) もともと少ないのにこんなに減っているのですね。これは深刻ですね。

木村委員) 深刻です。

管理部長) 山手幼稚園が閉園になったときの最後の人数が26人か27人でしたね。

教育長) それは2クラス足してですか、それとも1クラスですか。

管理部長) 全体の人数です。山手幼稚園が閉園した最後の年度は、たしかその人数だったと思います。

木村委員) この傾向が続けばどうなるのかということだと思います。

教育長) 今回の学級編成には直接関係ないのですが、岩園幼稚園が来年4月から開園します。地域の方にアピールしていく必要があります。どこかで、幼稚園の内覧会というか、現場を見ていただいたり、場合によってはアンケートをとったり、いろいろなことで意識を高めておかないといけない。開園したものの園児が少ないということでは困りますので。ぜひ、何かの折につけて、岩園幼稚園の存在をアピールして、工事の邪魔にならない範囲でやってほしいなと思います。

小石委員) 岩園幼稚園に行っていた子たちは、主に朝日ヶ丘幼稚園に行ったのですか。

学校教育部主幹) 朝日ヶ丘幼稚園と小槌幼稚園です。どちらかというところ、小槌幼稚園のほうが多いです。

小石委員) 小槌幼稚園のほうが多いのですか。朝日ヶ丘幼稚園に通うとなると坂ですからね。岩園幼稚園が新しくなって、たくさん来てくれたらいいですけどね。

浅井委員) 朝日ヶ丘幼稚園がすごく痛手を受けるというわけではないのですね。ごく近いところの方が朝日ヶ丘幼稚園に通ってらっしゃると考えていいでしょうか。

学校教育部主幹) 岩園町にお住まいの方とかは、1回おりてから上がらなけ

ればいけないような感じになりますので、そちらのほうから朝日ヶ丘幼稚園には余り入園されていないです。

小石委員) なるほど。

管理部長) 岩園幼稚園の道を挟んで向かい側は朝日ヶ丘町ですからね。オープンしてきれいになったら、岩園幼稚園へ来られるかもしれないので、来年の朝日ヶ丘幼稚園がこれだけの人数を確保できるかというのはわかりません。

浅井委員) 心配は心配ですね。

管理部長) 東山町ぐらいのところは、もう岩園幼稚園に来たほうが近いですし、きれいですからね。

社会教育部長) ただ、朝日ヶ丘はグリーンランドテニスの跡がどうなっていくかというところがありますね。

管理部長) あそこは109戸のマンションが建つようです。

小石委員) 若い人たちが入る可能性が高いですか。

管理部長) どれぐらいのグレードのマンションかはまだ見えていないのですが。

小石委員) そうですか。物すごく価格が高いと期待できませんね。

管理部長) そうですね。ただ、朝日ヶ丘は自動車がないと生活しづらいところなので、高齢者の方がお住まいになる可能性は低いかもしれません。

教育長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

<異議なしの声>

御異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈報告第20号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) ただ今から秘密会で審議いたしますので、教育委員及び管理部以外の方は退席願います。

〈非公開審議〉

〈第28号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 秘密会の審議は終了いたしましたので、これより公開いたします。

〈非公開審議 終了〉

教 育 長) 閉会宣言